

立命電友会

RITSUMEI DENYŪKAI

No.
58

目次

P1-2	巻頭言
P3-5	卒業生からの寄稿
P5	研究室紹介
P6	就職状況
P7	修了・卒業祝賀会祝辞、 2021年度表彰者一覧
P8	同窓会開催案内 学系だより、計報 第8回総会案内、事務局だより

巻頭言

カーボンニュートラルに向けた パワーエレクトロニクスと蓄電池

株式会社GSユアサ 常務執行役員
リチウムエナジー ジャパン 代表取締役社長

山口 雅 英 (1983年電気工学科卒)



私の生まれは京都の西隣の片田舎です。半世紀ほど前になりますが、小学生の頃は自宅のお風呂を薪で沸かして、駅へSLを見に行くのが楽しみでした。築100年超の実家にはかまどがあり、今から思うと当時はエアコンもなく、ものすごく省エネでエコな暮らしであったと思います。立命館には中学校からお世話になったのですが、電気との出会いは雑誌に載っていた電子工作が最初でした。当時のトランジスタはゲルマニウム製で、硫化カドミウム (CdS) セルや小型トランス、スピーカと組み合わせて、朝明るくなると「チッチ」が目覚ましかわりになる代物でした。これをきっかけに電子工作が趣味となり、オーディオアンプの自作やアマチュア無線などに没頭することになりました。大学はその関係もあって電気工学科に入学し、衣笠に通うことになったのですが、入学当時は勉強もおろそかで、相変わらず趣味やクラブ活動を楽しんでいました。実はこのときの勉強不足が祟ってあとになって大変な目にあうことになってしまいました。卒業研究はオーディオが趣味でしたので、小堀先生のもとで音響関係のテーマを選び、なんとかレポートが宙を舞うことなく卒業することができました。

就職の方はあまり活動をせず研究室の先輩が勤められていたこともあって地元の蓄電池メーカーに決まりました。なぜ音響好きであったのに蓄電池メーカーにした

のか今でもわかりませんが、蓄電池を使用した電源システム商品を手がけられていて、これがパワーエレクトロニクスとの出会いにつながりました。入社後は研究開発部門でスイッチング電源装置の開発にあたりました。ちょうど電界効果トランジスタ (FET) が使われた頃になります。このスイッチング電源は非常用電源として蓄電池の充電に使用するのですが、スイッチングにともなうサージ電圧の対策や熱設計に苦労しました。とりわけ出力電圧の安定確保が難しく、出力が発振したりして途方にくれてしまいました。ボード線図を用いて制御系に適切な位相補償をおこなうことで解決したのですが、ここで改めて自動制御について基本から勉強することになり、学生時代の勉強不足を大いに反省しました。

その後は無停電電源装置 (UPS) の開発に携わることになったのですが、その際に従来の一般的なUPSとは異なり、常時商用並列方式と称されるタイプの商品化をおこないました。この方式は商用電源とインバータを並列運転し、両者の位相差制御により蓄電池の充電と出力電圧の安定化を同時におこなうもので、構成がシンプルで高効率であるというメリットがあります。またこの方式は蓄電池から放電をおこなうこともできますので、蓄電池の代わりに太陽電池を接続すると商用電源に電力を供給することが可能となります。この

ことに着目し、当時の電力会社の研究所の方からお話をいただいて太陽光発電用の実証機を納入させていただくことになりました。今から約 30 年近く前になりますが、蓄電池を併用した出力変動吸収 + 停電補償付き太陽光発電システムの研究のお手伝いをさせていただくことができました。

これを契機として太陽光発電用パワーコンディショナ (PCS) の開発に注力することになり、前述のタイプとは方式等異なりますが、住宅用として 1993 年に発売し翌年国内 1 号機として認証もいただきました。ただ当時は発電設備として商用電源に接続する上で安全性や電力品質などの課題がたくさんあり、普及が進むにつれてこれらの解決が大きな開発テーマになりました。また太陽電池と蓄電池を組み合わせる夜間電力の有効利用と停電対策をおこなうシステムも開発し、その際の蓄電池の最適制御や容量について社内外の皆さんのご支援も得て研究をおこない、ご縁もあって 2000 年から 3 年間徳島大学の博士後期課程で研究をおこないました。社会人での勉強の機会をいただいたことはいろいろな意味で大変貴重な経験になったと思います。

一方、蓄電池の方ですが、当社として 2009 年に世界で初めて市販電気自動車 (EV) 向けのリチウムイオン電池の量産を開始しました。この年の年末に立命館大学びわこ・くさつキャンパスに EV を持ち込み、講演と体験試乗会をさせていただいたのですが、たくさんの学生の皆さんに大変興味をもっていただいたことを今でも鮮明に覚えています。現在、世界的に EV へのシフトが急激に進んでいますが、当時は夢にも思いませんでしたし、わずか 10 年あまりの変化としては本当に目を見張るものがあります。また同時にカーボンニュートラルを目指して太陽光や風力といった再生可能エネルギーの導入も積極的におこなわれていて、ここにも不安定な電力の安定化のために蓄電池の採用が進んでいます。最近の事例としましては北海道の稚内に大規模風力発電の出力変動吸収用として 720MWh

という世界でも最大級のリチウムイオン電池を納入させていただき、現在運転開始に向けた準備をおこなっています。

今後についてですが、蓄電池については全固体電池をはじめ各種電池材料の改善によるさらなる小型・高容量化と低価格化が進むと考えられ、車載用だけではなく船舶や航空機など様々な分野で電動化が進むと考えられます。また太陽電池や蓄電池は直流ですので、交流に変換するにはインバータが必要です。EV・HEV ではモータ駆動用としてより小型・高効率のインバータが必要ですし、電力系統と連系する PCS については今までいろいろな課題を解決してきましたが、電源の主役となるには回転機と同様の同期化力が必要であるとの議論が高まっています。また EV の蓄電池を電力系統に接続して有効利用する V2G (Vehicle to Grid) といった取り組みもおこなわれていて、EV が電力安定化に活躍する場面も実現するかもしれません。すなわち電動化や再生可能エネルギーの活用といったカーボンニュートラルにはパワーエレクトロニクスと蓄電池のさらなる進化が必要とされ、まさに 100 年に 1 度の変革期になくてはならない存在であるといっても過言ではないと思います。

最後になりますが、僭越ながらこのような拙稿執筆の機会をいただいたことに深謝申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸、立命電友会の益々の発展を祈念しまして結びとさせていただきます。



学生へのメッセージ — challenge mind を忘れずに —

工学院大学 先進工学部 応用物理学科
教授 山口智広
(2003年 博士課程修了)



私は、1996年光工学科の一期生として立命館大学に入学しました。それまでの高校生活では、100点満点の化学の試験で2点を取るなど勉学にまじめに取り組んでいませんでしたし、部活動なども行わず、本当にだらけた生活をしていました。そんな私が大学で教鞭をとるまでになるとは本当に人生分らないものです。高校時代のような生活は絶対に繰り返さないと心に誓い、気持ちを新たに大学に入学しました。学部時代は、すべての講義に休まず出席するとともに、英語や情報処理などの勉強にも力を入れました。勉強以外にも、学科の仲間が立ち上げたアルティメット（フリスビー）サークルに属し学生選手権に出場したり、近くの琵琶湖で遊べるように船舶の免許を取得したり、家庭教師や水泳・スキーのインストラクターなどのアルバイトを経験したり、充実した学生生活を過ごしました。

3年次終了後に飛び級制度を活用して大学院に進学し、名西徳之先生、荒木努先生の研究室で研究活動をスタートさせました。はじめは、当時共同研究を行っていたシャープ株式会社の研究者の方に毎日ついて、研究のイロハを教えてもらうことができました。研究室の先輩が世界一の素晴らしい半導体結晶（窒化インジウム）を作り、世界で認められる研究を行っていることを研究室の一員として身近に感じられたことも、大変貴重な経験でした。

博士課程で、数多くの国際学会に参加させていただくとともに、名西先生、荒木先生の海外での研究生活の話を聞き、またそのバックグラウンドを活かした教養に触れることで、海外での研究に強い憧れを持つようになりました。2003年に博士号を取得し、2004年1月からドイツ・ブレーメン大学でポストドクターとして働き始めました。ドイツでの生活では、はじめは特にコミュニケーションに苦労しました。大学や研究室での会話は主に英語でしたが、学部時代から英語の勉強に力を入れてはいたものの、英語の苦手意識は残っていました。ただ、英語を母国語としない者同士が英語を介して意思疎通をはかる環境に身を置くことにより、苦手意識は自然と消えていきました。ブレーメン大学の先生や学生たちとの研究ディスカッション、研究以外の日常生活、ブンデスリーグサッカー観戦での

野次（笑）など、日本語に翻訳することなく英語が自然とでてくるようになりました。研究を含め、充実した3年間を海外で過ごしたことは、今でもとてもいい経験となっています。

帰国後、立命館大学に戻ってさらに4年間ポスドクとして働きました。立命館大学でのポスドク期間中は、世界に認められる研究成果を挙げることができ、国際学会での招待講演等もさせていただきました。一方で、将来ビジョンの見えにくいトータル7年間に及ぶポスドク生活で、不安を感じることも多々ありました。グローバルに活躍したいと努力している学生や若手研究者のための基盤・環境は、企業も含め、日本にもっと根付いてほしいと強く願っています。

2011年より工学院大学にて教鞭をとっています。立命館大学で受けた教えやこれまでの経験を活かしながら学生の教育を行い、また同時に、私自身も学生から多くの事を学んでいます。研究では、学生時代から一貫して半導体の結晶成長を行っています。発光デバイスとなる窒化物半導体やパワーデバイスとして期待される酸化半導体の結晶成長技術の高度化とそれら材料を用いたデバイス製作を行っています。また、照明、表示、可視光通信（Li-Fi）、光無線給電（OWPT）などを合わせた機能性システムにも興味をもって研究を進めています。

立命館大学は飛び級制度をいち早く取り入れるなど新しいことを積極的に取り入れる大学だと思います。そのような環境で学べたこと、チャンスを頂けたことは私にとっての誇りです。最近、立命館大学は、文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援事業に採択され、海外での研究や海外機関との研究、そのネットワーク作りなど、国際化に目を向けやすい状況にあると思います。そのような環境下で学べる現在の学生さんたちをとてもうらやましくも感じます。このようなチャンスに積極的に関わるかどうかは本人の気持ち一つです。

学生のうちは興味があることは二の足を踏まずに積極的にチャレンジしてほしいと思います。自身の更なる成長に繋げるためには、二の足を踏んでいる時間は必要ありません。例え失敗しても、学生時代にチャレンジするという経験をたくさんすることは、社会人になってからの人生においてもとても重要であると思います。是非失敗を恐れず、チャレンジをし続ける充実した学生生活を送ってほしいと思います。立命館大学が掲げる『Beyond Borders』の気持ちを胸に、私自身もさらなる成長に励みたいと思います。

学生時代を振り返って 現役生にお伝えしたいこと

東京電力パワーグリッド株式会社 経営企画室
遠藤寛明
(2015年 電気電子工学科卒)



●はじめに

事務局から執筆の依頼を受けた時、今までの執筆者が様々な分野で活躍されている大先輩方でしたので、「若輩者の私で適切なのか」と少し恐縮しつつ、折角の機会ですので引き受けることにしました。

●学生時代

今から11年前、理工学部電気電子工学科に入学しました。秋田県出身の私にとって、全く環境の異なる関西での生活は、全てが非常に新鮮だったのを覚えています。びわこ・くさつキャンパスがある滋賀県草津市について、同級生達は「非常に田舎」と言っていました。それ以上の田舎から来た者としては、大都市にも近く、程よく都会で非常に過ごしやすい地域でした。

1年間の浪人を経て始まったキャンパスライフですが、浪人生活から解放されたこと、親元を離れたこともあって、羽を伸ばしすぎたところがあり、勉学よりもラグビーサークルの活動に力を入れており、決して出来の良い学生ではありませんでした。毎回の授業内でテストを設けていた某教授の授業の前日は、優秀な同級生の家に集まって泊まり込みで対策し、何とか単位を取得できた状況でした。

3回生後期になると、卒業研究の配属があり、鷹羽浄嗣教授の研究室に所属し、電力ネットワークにおける分散協調制御について学びました。鷹羽先生や院生の方に多大なご協力をいただき、何とか卒業することができました。

以上のように決して優秀な学生ではありませんでしたが、入学時点から「電気主任技術者の資格を将来的に取得したい」と考えており、免状交付に必要な単位を取得する必要があったため、卒業条件より10~20単位多く取得しました。幅広く学びを得られたことは社会人になっても活かされていると思います。

●卒業後

大学受験前から電力会社への就職を希望しており、卒業後は第一希望であった東京電力に入社しました(その後、分社化に伴い一般送配電事業者の東京電力パワーグリッドに所属)。川崎支社の配電部門に配属され、保守業務を経て、設計業務に従事しました。川崎市内には、西部地域の大規模分譲地、武蔵小杉等の高層ビル群、登戸駅周辺等の区画整理事業があり、様々な供給設計・設備移設設計に携わりました。三相

平衡や短絡電流値、電柱強度計算等、電氣的・力学的検討が必要な業務でしたが、学生時代に学んだことを活かして、大きな問題なく取り組むことが出来たと思います。

入社4年目から国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)に出向し、スマートコミュニティに関する研究開発および海外実証に従事しました。研究開発では、分散型エネルギー次世代電力網構築実証事業を担当し、配電システムへの導入を目的としたSiCパワー半導体を用いた次世代電圧調整機器や制御システムの開発を担当しました。この開発では卒業研究で学んだ知識が役立ちました。海外実証では、リスボンでのデマンドレスポンス事業やカリフォルニアでの蓄電池併用運転事業等を担当しましたが、基礎となる知識は学生時代の授業で得たものが多く、分からないことがあると学生時代の教科書を読み返して対応する日々でした。

昨年10月より東京電力パワーグリッド(株)経営企画室に所属しており、レベニューキャップ制度に向けた託送原価の検討を行なっております。直接技術に関わる業務ではありませんが、事業原価を算定するためには技術部門の事業内容等を理解する必要がありますので、学生時代に学んだことや社会人になってから経験したこと等が活きていると感じています。

●現役生にお伝えしたいこと

若輩者の私ですが、社会人として7年経験し、学生時代にもっと頑張るべきだと思ったこと、卒業後も継続すべきこと等を3点お伝えします。

1点目は自分の武器・強みを作ることです。企業で働き始めると分からないこと等がたくさん出ると思いますが、本質的に理解している得意分野があるとそこと絡めて理解したり、全く分からないことでもどう学んでいくと知識定着まで持っていけるかイメージしたりできるようになります。

2点目は語学力を身につけることです。地域密着のようなイメージをよく持たれる電力会社ですら海外業務がありますし、他業種ならなおのこと海外業務はあると思います。技術を理解していて語学力がある人財はどの業界からも求められると思います。

3点目は同級生との関係性を卒業後も維持することです。私自身、現在も同級生と定期的に連絡を取っていますが、様々な業界・分野で活躍している話を聞くと、自らももっと頑張らないといけないという気持ちになりますし、異業種の話は新しいアイディアに繋がったりします。

コロナ禍で学生の皆様はオンライン授業等、慣れない環境下での学生生活となっているかと思いますが、環境変化に対応できる人財は社会人になっても活躍で

きると思います。今の環境下でも明るく楽しく、研究や課外活動等に取り組んでいただけたらと思います。

●おわりに

現在、立命電友会・関東立電会の幹事を務めており

ますが、同世代の方が少ない状況です。ご協力賜われる方がいましたら、事務局へご連絡いただけますと幸甚に存じます。

電友会の隆盛、皆様のご健勝とご多幸を祈念いたします。

研究室紹介

知的・高性能計算研究室

(孟研究室)



孟 林

研究概要

本研究室では、知的、高性能計算、およびそれらを融合したIoTシステムの三つの領域を研究しています。“知的”について、先端なAI技術を応用し、文化遺産の整理と保護、産業応用を実現し、また、鋭い感覚で緊急な社会問題を察知し、問題緩和を取り込んでいます。“高性能計算”について、AIモデルの冗長計算の削減、FPGAを用いたAIモデルのハードウェア化により、先端AIの高速化を目指します。さらに、“IoTシステム”について、Edgeデバイスでカメラなどにより周辺情報を取得し、EdgeデバイスとCloudの処理バランスを考慮し、便利な情報システム社会の実現に貢献します。研究室の特徴は以下となります。

研究のコア技術

ソフト・ハードウェア両方の勉強と研究ができ、画像処理・機械学習・データベースなどの伝統的な技術を習得すると同時に、人工知能・IoTなどの先端技術を研究できます。

研究室の特徴

研究成果を重視し、積極的に学会発表（特に国際会議）と国際論文誌を挑戦します。また、国際会議の

研究発表から運営までを行い、米国・中国・インドと共同研究し、真のグローバル研究を目指します。さらに、博士在籍数は多く、複数の高度先進的なプロジェクト研究を進め、社会要請に鋭い感覚で、迅速に対応しています。研究室は誕生3年で、急成長し、現在教員を含め28人で構成されています。

研究テーマ

図1には一部の研究テーマを示します。

1 AIとビッグデータ解析による古代文化遺産の保護・整理と潜在的な知識の発見

本研究は文理融合的な研究で、AIとビッグデータ解析技術を用いて、古文献を整理し、潜在的な知識を発見します。

2 AI+IoTとその産業への応用

IoT (Internet of Things) は、全ての計算機器をネットワークに接続し、一体になっています。AI+IoT (AIoT) はAIに翼を与えて様々な分野での応用が実現することができます。我々は、複数産業の要請に応じて、AI+IoTを融合し、産業への応用を実現しています。

3 AI+高性能計算: AIが、AIをよりコンパクトし、より賢くします。

本研究は“AIが、AIをよりコンパクト、より賢くする”という目標を掲げています。つまり、AIは学習するときに、自ら冗長計算を算出し、削減を行うことにより、モデルのコンパクト化を実現します。また、FPGAアクセラレータとプロセッサを混在するヘテロジニアスAIを実現し、AIの高速化を目指します。

表1 2022.4 メンバー構成

学 年	人 数
博士後期課程	5 名
修士2年生	9 名
修士1年生	4 名
卒 研 生	9 名

AIにより文化遺産の保護
・ 古文献の認識と整理
・ 古文献の修復

産業へAIの応用
・ 金属劣化検出
・ ロボティクスと融合する食産業への応用

AIにより緊急社会問題の緩和
・ 高齢者社会への貢献
・ コロナ社会への貢献



図1 研究内容

2021 (令和 3) 年度 電子システム系修了生・卒業生進学・就職状況

2022 年 3 月修了・卒業の大学院前期課程・学部生の進学・就職状況を表Ⅰに、就職先一覧を表Ⅱに示します(2022 年 3 月 29 日現在)。

大学院前期課程の修了者数は 114 名、学部卒業生は 191 名です。大学院後期課程への進学者は 4 名、学部卒業生のうち 115 名が大学院前期課程に進学し、進学率は約 60% です(昨年度は 52%、一昨年度は 40%)。ここ数年は大学院前期課程への進学率がやや低下傾向にあります。大学院修了者の就職状況は好調であり、また大学院修了生は研究開発・設計職に就く人が多い傾向は続いています。就職先の業種に関しては、電気・電子および機械系の比率が例年通り最も多くなっています。情報システムや自動車なども引き続き堅調であるのに加え、電力、通信などの業種も増加傾向にあります。

大学院前期課程修了生の 95% (昨年度は 91%、一昨年度は 98%)、就職を希望する学部卒業生の内の 86% (昨年度は 78%、一昨年度は 71%) が就職先を決定しています。つまり、大学院前期課程修了生、就職を希望する学部卒業生ともに、その決定率は高いものとなっています。ただ、新型コロナ禍に伴って大卒の求人倍率は 1.50 倍に低下し(昨年度は 1.53 倍、一昨年度は 1.83 倍)、少なからず求人に影響を与えました。他方、リモートワークやオンライン化、さらには、AI ブームに伴い、電子系学生のニーズが高まっており、電子系学生に有利な傾向も見受けられます。

2021 年度卒業・修了予定者から、経団連は企業の説明会は 3 月開始、選考は 6 月開始の指針という指針を廃止しました。ただし、政府主導にて大学・経済界と

の協議の上、これ迄の採用指針はある程度維持されることになりました。しかしながら、実際には 3 月以前に OB 訪問、オンライン訪問という形態で実質的な広報活動が進むというのがここ数年の動向となっています。また近年、夏のインターンシップに加えて、1～2 月に短期のインターンシップを行う会社が増加しています。選考の早期化の動きに対応するため、早期に自主的に企業研究や自己分析などの準備をしておくことが重要です。特に、新型コロナ禍に伴うオンライン就活に対応するため、オンラインツール環境の整備が重要となります。その意識づけの為に、キャリアセンターでは前年の 4 月・10 月に進路・就職ガイダンスを、12 月に就活直前ガイダンスを開催しています。電子システム系では、早い段階で、就職活動に対する意識づけを行うため、2 回生以降の専門科目の中で、就職活動を終了した先輩や電子システム系出身の OB を招聘して、オンラインキャリア講演会を開催しております。先輩諸氏におかれましても、より一層のご支援をお願い申し上げます。(就職委員 田口 耕造)

表Ⅰ. 修了者・卒業者・進学者・就職者一覧

(2022 年 3 月 29 日現在)

	卒業生	進学者	就職者	活動中 (内定あり含む)	その他
大学院 (電気電子工学科)	70	1	67	0	2
大学院 (電子情報工学科)	44	3	37	2	1
電気電子工学科	109	69	35	5	0
電子情報工学科	82	46	30	4	3
合 計	305	119	169	11	6

表Ⅱ. 就職先一覧

(大学院・修了生の就職先も含む) (順不同敬称略)

業 種	企 業 名	
工 事 業	(株)大林組、(株)きんでん、(株)高岡工業所、(株)NTT フィールドテクノ	5 社 / 5 名
製 造 業 (金属・機械)	(株)神戸製鋼所、(株)ダイハツメタル、大阪製鐵(株)、ダイキン工業(株)、KYB (株)、長谷川鉄工(株)、NTN (株)、(株)タクマ、東芝エレベータ(株)、川崎重工業(株)、(株)クボタ、東洋ハイテック(株)、(株)ナベル、レックス工業(株)、(株)日立国際電気、(株)小松製作所、日新イオン機器(株)、(株)マキタ、(株)イシダ、(株)シグマ	20 社 / 22 名
製 造 業 (電子・電気) (情報通信) (輸送機械)	ローム(株)、(株)藤田製作所、キオクシア(株)、(株)アスカ、浜松ホトニクス(株)、日東電工(株)、ソニーセミコンダクタソリューションズ(株)、ルネサスエレクトロニクス(株)、(株)日立製作所、(有)メカノトランスフォーマ、ニチコン(株)、パナソニック(株)、三菱電機(株)、日本電産(株)、富士電機(株)、(株)村田製作所、桑畑電機(株)、(株)GS ユアサ、マッスル(株)、三友エレクトリック(株)、(株)ニューリー・土山、日新電機(株)、オムロン(株)、シャープ(株)、キヤノン(株)、セイコーエプソン(株)、(株)東芝、(株)デンソー、(株)豊田自動織機、トヨタ車体(株)、マツダ(株)、ヤマハ発動機(株)、トヨタ紡織(株)、本田技研工業(株)、トヨタ自動車(株)、三菱自動車工業(株)、スズキ(株)、(株)アイシン、豊田合成(株)	39 社 / 71 名
電気・ガス業	関西電力(株)、九州電力(株)、四国電力(株)、大阪瓦斯(株)	4 社 / 6 名
通信・放送業	(株)NTT ドコモ、東日本電信電話(株)、(株)オプテージ、西日本電信電話(株)、ソフトバンク(株)	5 社 / 6 名
情報サービス業	富士通(株)、(株)ピークアドバンス、(株)エヌ・ティ・ティ・データ、TIS 西日本(株)、日本アイ・ビー・エムデジタルサービス(株)、(株)クリーブウェア、(株)システナ、伊藤忠テクノソリューションズ(株)、(株)日比谷リソースプランニング、NEC ソリューションイノベーション(株)、(株)NEXCO システムズ、エヌ・ティ・ティ・インターネット(株)、ソニー LSI デザイン(株)、第一生命情報システム(株)、富士ソフト(株)、パーソル AVC テクノロジー(株)、トヨタテクニカルディベロップメント(株)、(株)Sharing Innovations、(株)JR 東日本情報システム、(株)リボルブ・シス、(株)カブコン、日本電気航空宇宙システム(株)、TIS (株)、(株)トヨタシステムズ、SCSK (株)、ヤフー(株)	24 社 / 28 名
そ の 他	(株)ネクスティエレクトロニクス、東京電力ホールディングス(株)、(株)SCREEN ホールディングス、アライドテレシスホールディングス(株)、住友電工システムソリューション(株)、日揮(株)、ソニーグループ(株)、(株)アウトソーシングテクノロジー、(株)アルトナー、(株)メイテック、(株)ワールドコーポレーション、(株)VSN、(株)ウイルテック、(株)ワールドインテック、(株)アオイ警備保障、(株)C-clamp、(株)スカイウィル、大和ハウス工業(株)、ロシュ・ダイアグノスティクス(株)、(株)サンライズ、SOLIZE (株)、新コスモス電機(株)、大工製紙(株)、キムラユニティ(株)、(株)大阪めいらく、社会 (医) 厚生会、(株)アクティオ、三菱電機システムサービス(株)、国家公務員総合職、奈良県人事委員会	30 社 / 31 名

立命電友会 2021年度入会式 (オンライン形式) 開催

立命電友会 入会式に当たり、 お祝いの言葉として

立命電友会会長 瀬見 英利

2021年度ご卒業の皆様、おめでとうございます。
新しい社会に飛び立つ皆様に、幸あれと祈念いたします。
卒業と同時に、立命電友会の会員にもなって頂いております。歓迎致します。

本来、入会式で、対面にて、お祝いすべきなのですが、新型コロナウイルス感染症の流行が継続しているため、文書でのお祝いになることをお許しください。

思い起こせば、私の卒業式も学園紛争にて行われなかったと記憶しております。

今になれば、当時の事を思い出す一つの逸話になり、懐かしいとも思えます。

さて、これからは、皆様には、新しい人生のはじまりとなるのですが、今までは誰かが与えてくれた課題に対する対応が中心だったかと思いますが、今後は自分で問題を発見して、解決策を見出し、分析、検討して、対処法を実行し、結果の推移を確認し、修正して改善していくことになります。

大学で、先生方から、教わった学力をベースに変わりゆく社会に合わせて、自分独自の考え方に基づいた活動することになります。垂れ流される情報を無批判に信じ込むのみでなく、自分で考え、信念をもって

行動して頂きたいと願います。どんどん、チャレンジしてください。この時期での失敗は、糧になります。周りも許容してくれます。

自由に社会の変革、継続等にご活躍ください。

しかし、一人の力で何でもできるという訳にもいかないでしょう。学生時代の仲間を中心に「ワンチーム」で、諸事難題を解決しなければならない事もあるでしょう。それでも、簡単に解決できない大きな壁におち当たることもあるかと思えます。そんな時、いつでも、立命電友会の仲間にも相談してください。日本各地に、いや世界各地に1万4千名強の会員がおられます。各所で、多くの知見をお持ちの諸先輩が、バリバリ働いておられます。我々には、同じ大学、同じ学科で学んだ共通の太い絆があります。相談すれば、何か、きっと良い解決策が見つかるのでは！ 遠慮なく、ご相談ください。

今年は、立命電友会が発足して、30周年の記念の年です。11月にはこれを記念して盛大に懇親会を計画しております。ぜひ、ご参加をお願いいたします。

最後に、私のなかった卒業式に、贈って頂いた末川博（当時の総長）先生の色紙の言葉を皆様の新しい社会への門出にあたり、お贈り致したいと思います。

「理想は高く、姿勢を低く いつも心に太陽をもって ゆっくりとがっちりと 理論を貫いて実践に生き 実践を通して理論を究め 前へ前へと進もう。未来を信じ、未来に生きる 君の洋々たる前途を祝福して」

立命電友会 概要

設立
1992年11月1日

会員
京都府立大学内の私立電気講習所(1913[大正2]年設立)以来、立命館学園における電気・電子系関連学科/専攻の在籍者およびその関連研究室の在籍者、またその教員と教員OB

会員数
15,000名程度(1992年創立当初 8,268名)

目的
本会は会員相互の親睦を計り、相互の社会的ネットワークを構築し、あわせて立命館学園と科学技術の発展に寄与することを目的とする。



(立命電友会 2021年度入会式・オンライン形式の様子)

電子システム系 2021年度 表彰者一覧

2021年度、在学時に学業・もしくは研究活動を活発に行ってきた学生25名が表彰されました。

おめでとうございます。(敬称略)

学業成績 部門

●学部生 (最優秀賞)

計2名

森脇 裕貴 (電気電子工学科) 藤田 太一 (電子情報工学科)

研究活動 部門

●大学院生 (最優秀賞)

伊藤 哲 岩本 航汰 大山 達哉

竹口 皓太 福田 悠太 守屋 亮

計6名

●大学院生 (優秀賞)

高橋 寛幸 徳 雄帆 平井湧一朗 増田 春樹

美馬 悠一 宮本 旭 山下裕之介 山本 捷義

GAO HAN SHI WANYIN

計10名

●学部生 (最優秀賞) 対象者なし

●学部生 (優秀賞)

GAO Zhihui (電子情報工学科)

WANG Xiangheng (電子情報工学科)

渋谷 恒介 (電子情報工学科)

西羅 真央 (電子情報工学科)

橋本 宏一 (電子情報工学科)

藤田 太一 (電子情報工学科)

吉村 拓真 (電子情報工学科)

計7名

(電気電子工学科 対象者なし)

以上

第 4 回 川畑研究室同窓会 開催のご案内



この度、川畑研究室では 11 月 6 日（日）に第 4 回同窓会を開催する運びとなりました。前回は 2019 年に辻村・前田研／浦山研／川畑研の合同の形で衣笠キャンパスにて執り行って以来となります。今回は、電友会 30 周年記念祝賀会と同日で、祝賀会後に開催することになりました。

川畑隆夫教授の研究室同窓会が 1993 年に発足して以来、200 名を超える卒業生を輩出すると共に、2015 年より同窓生である川畑良尚先生が教授になられてパワーエレクトロニクス研究室を受け継ぎ、今年で 29 年が経過いたしました。

これからも良尚教授や現役生と同窓生との交流の場にしたいと思いますので、是非とも万障お繰り合わせの上、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

4 月上旬に案内状を送付させていただく所存ですが、出欠連絡については今回オンラインにて取りまとめを行いますので、下記のアドレスよりご連絡をお願い致します。（ご欠席の場合も、近況報告等、メッセージをお寄せ頂ければ幸いです。）

<https://dou2022.kawabata-dousoukai-rits.online/>

なお、開催日におけるコロナ状況の判断が難しいため、10 月中旬～下旬に最終判断を行い、開催可否を決定いたします。（平成 7 年卒 威徳井 浩 記）

立命電友会 第 8 回 総会の案内

日 時：2022 年（令和 4 年）6 月 25 日（土）

開催場所：キャンパスプラザ京都 ハイブリッド形式での開催予定

詳しい内容は改めてご案内させていただきます。

訃 報

昭和 30 年卒	山根 雷三	令和 3 年 3 月
昭和 37 年卒	橋本 茂	令和 2 年 8 月 29 日
昭和 41 年卒	大西和三郎	令和 3 年 9 月 30 日
昭和 45 年卒	林田 憲治	令和 2 年 11 月
昭和 45 年卒	吉田 耕三	令和 3 年 7 月 29 日

ご冥福をお祈り申し上げます

令和 4 年度 電子システム系の主な役職者（◎学系長）

◎電気電子工学科	学 科 長	佐野 明秀
	就職委員	田口 耕造
電子情報工学科	学 科 長	久保 博嗣
	就職委員	泉 知論

新 任	清水 悠生
	令和 4 年 4 月 1 日、電気電子工学科 助教に着任
	吉田 康太
	令和 4 年 4 月 1 日、電子情報工学科 助教に着任

事務局だより

立命電友会会報 58 号の発行にあたり、ご寄稿を頂きました皆様に対し心よりお礼を申し上げます。

今後も会報内容充実に一層の努力を重ねて参りたいと考えております。どうぞ、会員の皆様の積極的なご寄稿を賜ります様よろしくお願い申し上げます。

住所及びアドレスの変更がございましたら事務局までご連絡頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。ホームページから変更受付しておりますのでご活用下さい。

（上田・岸）

立命電友会連絡先

〒 525-8577

滋賀県草津市野路東 1-1-1

立命館大学理工学部電子システム系内

立命電友会事務局 川畑 良尚

上田 美津子（月・木）

岸 千津代（月・木）

電 話：077（561）2554 FAX：077（561）2663

e-mail：den-yu@st.ritsumei.ac.jp

<http://ritsumei-denyukai.com/>

（会報の題字は久保之俊氏）